

Title	完全重複腎盂尿管に発生した腎盂腫瘍の1例
Author(s)	玉田, 博志; 田村, 健; 金子, 卓司; 高田, 耕; 佐熊, 勉; 鈴木, 泰
Citation	泌尿器科紀要 (1998), 44(10): 733-735
Issue Date	1998-10
URL	http://hdl.handle.net/2433/116270
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

完全重複腎盂尿管に発生した腎盂腫瘍の1例

岩手県立中央病院泌尿器科 (科長: 高田 耕)

玉田 博志*, 田村 健, 金子 卓司, 高田 耕

岩手県立中央病院病理診断センター

佐 熊 勉

岩手医科大学泌尿器科学講座

鈴 木 泰

A CASE OF RENAL PELVIC CARCINOMA IN A COMPLETELY
DUPLICATED PELVIS AND URETER

Hiroshi TAMADA, Takeshi TAMURA, Takuji KANEKO and Ko TAKATA

From the Department of Urology, Iwate Prefectural Central Hospital

Tsutomu SAKUMA

From the Department of Pathology, Iwate Prefectural Central Hospital

Yasushi SUZUKI

From the Department of Urology, Iwate Medical University School of Medicine

We report a case of renal pelvic carcinoma with a completely duplicated pelvis and ureter. A 72-year-old man was referred to our hospital because of asymptomatic and macroscopic hematuria. Excretory urography and retrograde pyelography revealed a tumor in the left upper renal unit of a completely duplicated pelvis and ureter. Left total nephroureterectomy was performed. Histological diagnosis was transitional cell carcinoma. This is the 8th case of upper urothelial tumor occurring in a completely duplicated pelvis and ureter in the Japanese literature.

(Acta Urol. Jpn. 44: 733-735, 1998)

Key words: Completely duplicated pelvis and ureter, Renal pelvic carcinoma

緒 言

重複腎盂尿管は、比較的多く見られる尿路奇形の1つであるが、上部尿路腫瘍の合併は稀である。今回われわれは左完全重複腎盂尿管の上半腎所属腎盂に発生した腎盂腫瘍の1例を経験したので報告する。

症 例

患者: 72歳, 男性

主訴: 無症候性肉眼的血尿

既往歴: 48歳より狭心症, 62歳より高血圧症で通院加療

家族歴: 長女が乳癌

現病歴: 1998年2月1日無症候性肉眼的血尿に気付き2月3日当科受診。IVP, 膀胱鏡で、左完全重複腎盂尿管の上半腎腎盂腫瘍が疑われたため2月18日精査目的に当科入院となった。

入院時現症: 身長 162.0 cm, 体重 67.0 kg, 胸腹

部の理学的所見に異常を認めなかった。

入院時検査成績: 血液一般, 血液生化学に異常を認めなかった。尿沈渣: RBC 多数/各視野。自然尿細胞診; 移行上皮癌疑い。

画像検査: IVP では左重複腎盂尿管を認め、上半腎腎盂に腫瘍を疑わせる陰影欠損像を認めた (Fig. 1A)。膀胱鏡では左下半腎尿管はほぼ正常の位置に開口しており、上半腎尿管は下半腎尿管口のやや下内側に開口していた。逆行性腎盂造影でも、上半腎腎盂に陰影欠損像を認めた (Fig. 1B)。また、同時に施行した左上半腎尿細胞診では移行上皮癌, G2 であった。以上より、左完全重複腎盂尿管の上半腎腎盂に発生した移行上皮癌と診断し、1998年3月4日全身麻酔下に左腎尿管全摘除術を施行した。

摘出標本: 腫瘍は上半腎腎盂に認め、乳頭状、有茎性で、大きさは1.4×0.8 cm であった。

病理組織: 腫瘍は血管結合組織性の茎を有して、乳頭状に増殖していた。上皮は、7層以上であり、核の腫大、極性の消失を認めた。浸潤像は認めなかった。移行上皮癌, G2, pTa と診断した (Fig. 2)。なお、上

* 現: 岩手県立大船渡病院泌尿器科

半腎腎盂から上部尿管にかけて粘膜移行上皮に dysplasia を認めた。下半腎腎盂尿管粘膜には dysplasia, 腫瘍性病変を認めなかった。

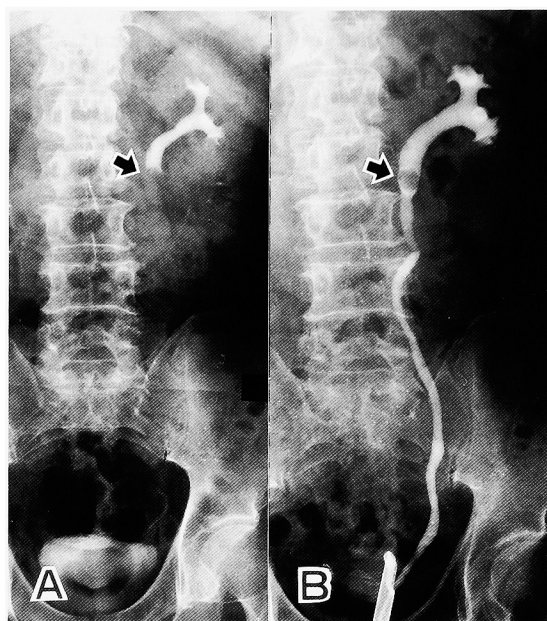


Fig. 1. Excretory urography revealed almost complete obstruction at the upper duplicated ureter of the left kidney (A). Retrograde pyelography showed a filling defect at the upper duplicated segment of the left renal pelvis (B).

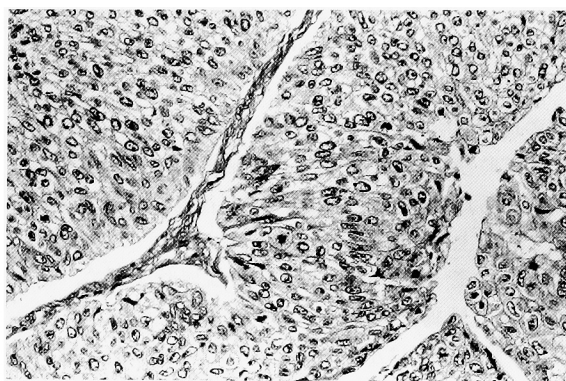


Fig. 2. Histological finding of the tumor shows transitional cell carcinoma, G2.

考 察

重複腎盂尿管は比較的多く認められる奇形で、全人口の4～6%にみられるとされる¹⁾。上下両腎盂から2本の尿管が全長にわたり完全に2本に分かれ別々の尿管口を有するものが完全重複腎盂尿管であり、上半腎腎盂尿管には異所開口、尿管瘤を合併し、異形成、低形成を示すことが多く、下半腎には膀胱尿管逆流を認めることが多いとされる²⁻⁴⁾。しかし完全重複腎盂尿管に腎盂尿管腫瘍を合併することはきわめて稀である^{5,6)}。本邦ではわれわれが調べたかぎり7例の報告があり⁷⁻¹³⁾、自験例は8例目と思われた (Table 1)。自験例を含む8例を集計すると年齢は44歳から72歳、40歳代が3例、50歳代が2例、70歳代が3例、平均58.1歳であった。男性4例、女性4例、また右側4例、左側4例と性差、左右差を認めなかった。腫瘍が発生した腎盂尿管の所属については、不明1例を除く7例中5例が上半腎所属であり、他の2例は下半腎所属であった。上半腎所属例では、全例が腎盂に腫瘍を認めた。腫瘍の組織型は移行上皮癌7例、扁平上皮癌が1例であった。

腎盂尿管腫瘍は一般的に60歳以上の高齢者に高頻度に認めるとされている¹⁴⁻¹⁶⁾。しかし今回の集計では8例中5例が60歳未満でそのうち3例は40歳台で壮年者に認められた。また7例中5例が上半腎所属の腎盂尿管に発生していた。

治療は従来の報告例では全例に腎尿管摘除術が施行されていた。腫瘍を合併しない完全重複腎盂尿管の半腎に異所開口、尿管瘤、膀胱尿管逆流などの他の奇形を伴い腎機能障害を認める場合、罹患側半腎摘除術が選択されることがある^{2,17,18)}。不完全重複尿管に合併した尿管腫瘍例に上半腎摘除術を行った報告はあるが¹⁹⁾、完全重複腎盂尿管例での報告はない。自験例は当初上半腎摘除術を検討した。しかし①健側腎機能が正常、②患側上位腎が患側腎の2/3を占めていた、③根治性の問題が不明、④上半腎摘出を施行した場合、尿管末端を完全に切除できなければ下半腎尿管の逆流現象、排尿困難などの合併症を認めることがあ

Table 1. Cases of the upper urothelial cancer occurring in a complete duplicated pelvis and ureter in the Japanese literature

No.	報告年	報告者	年齢	性別	患側	病理組織	部 位
1	1983	森川 ⁷⁾	57	女	右	TCC G2	不明, 下部尿管
2	1984	高橋 ⁸⁾	45	女	右	TCC G2	下半腎, 中部尿管
3	1984	北原 ⁹⁾	70	男	左	TCC G3	上半腎, 腎盂
4	1986	杉山 ¹⁰⁾	44	男	右	TCC G2	上半腎, 腎盂, 上下部尿管
5	1987	米津 ¹¹⁾	58	女	右	TCC G3	下半腎, 上部尿管
6	1988	山田 ¹²⁾	70	男	左	TCC G2	上半腎, 腎盂, 下部尿管
7	1989	御厨 ¹³⁾	49	女	左	SCC	上半腎, 腎盂
8	1998	自験例	72	男	左	TCC G2	上半腎, 腎盂

る²⁾, などを検討した結果上半腎摘出を行う利点が少ないと判断した。しかし今後, 症例によっては半腎摘除術も検討していくべきと考えている。

結 語

完全重複腎盂尿管の上半腎腎盂に発生した移行上皮癌の稀な1例を経験したので報告した。

文 献

- 1) Thompson IM and Amar AD: Clinical importance of ureteral duplication and ectopia. *JAMA* **168**: 881-886, 1958
- 2) 小柳知彦, 辻 一郎: 完全重複腎盂尿管に伴う腎尿路異常. *日泌尿会誌* **68**: 1218-1238, 1977
- 3) 後藤敏明, 小柳知彦, 松野 正: 完全重複腎盂尿管に伴う泌尿器科的諸問題の診断と治療. *日泌尿会誌* **77**: 1121-1131, 1986
- 4) 石部知行, 碓井 亜: 尿路の発生と先天異常. 新臨床泌尿器科全書. 第3巻A. 市川篤二 他編, pp. 97-103, 金原出版, 東京, 1984
- 5) Budd JS: Primary transitional cell carcinoma of renal pelvis in a duplicated collecting system. *Br J Clin Pract* **41**: 1063-1064, 1987
- 6) Dudak SD and Antun RA: Transitional cell carcinoma in a duplicated ectopic ureter. *Urology* **46**: 251-253, 1995
- 7) 森川史郎, 吉田和彦, 浅井 順: 完全重複腎盂尿管に合併した原発性尿管癌の1例. *日泌尿会誌* **74**: 1259-1260, 1983
- 8) 高橋 等, 武田正雄: 重複腎盂尿管にみられた原発性尿管癌の1例. *日泌尿会誌* **75**: 1519, 1984
- 9) 北原 研, 小関清夫, 岸 洋一, ほか: 尿管異所開口を伴った完全重複腎盂尿管に発症した腎盂腫瘍の残存部尿管再発例. *日泌尿会誌* **75**: 1341, 1984
- 10) 杉山寿一, 上平 修, 加藤範夫: 完全重複腎盂尿管に発生した原発性腎盂尿管腫瘍の1例. *静岡済生会総合病医誌* **4**: 41-47, 1986
- 11) 米津昌宏, 置塩則彦, 柳岡正範, ほか: 重複腎盂尿管に発生した尿管腫瘍の1例. *西日泌尿* **49**: 1871-1874, 1987
- 12) 山田和彦, 吉田和弘, 阿部裕行, ほか: 重複腎盂尿管に発生した上部尿路上皮腫瘍の2例. *臨泌* **42**: 645-648, 1988
- 13) 御厨裕治, 上田正山, 東陽一郎, ほか: 異所開口で逆流を伴う完全重複腎盂尿管に発生した腎盂扁平上皮癌の1例. *泌尿紀要* **55**: 847-850, 1989
- 14) 和志田裕人, 上田公介: 原発性尿管癌の1例および本邦報告294例の統計的観察. *泌尿紀要* **17**: 755-765, 1971
- 15) 伊藤哲二, 宮尾洋志, 伊藤 聡, ほか: 腎盂尿管腫瘍の臨床的検討. *泌尿紀要* **39**: 701-704, 1993
- 16) 奥村昌央, 横山豊明, 村石康博, ほか: 腎盂尿管腫瘍の臨床的検討. *泌尿紀要* **40**: 777-780, 1994
- 17) Belman AB, Filmer RB and King LR: Surgical management of duplication of the collecting system. *J Urol* **112**: 316-321, 1974
- 18) 那須良次, 宮地禎幸, 櫻本耕司, ほか: 出生前超音波検査が発見の契機となった異所性尿管瘤の1例. *西日泌尿* **52**: 601-606, 1990
- 19) Gepi-Attee S and Gingell JC: Ureteric tumour in a duplex system. *Br J Urol* **68**: 106, 1991

(Received on April 13, 1998)

(Accepted on June 30, 1998)